



令和 6 年(2024 年)12 月 18 日

テーマ展「^{きつしょう}吉祥—^{しょうふく}招福の^{いしやう}意匠—」を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催いたしますのでお知らせします。

記

1 展覧会名称

テーマ展「吉祥—招福の意匠—」

2 会 期

令和 7 年(2025 年)1 月 1 日(水・祝)～2 月 2 日(日) 会期中無休

開館時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

3 会 場

彦根城博物館 展示室 1

4 展示の趣旨

「^{きつしょう}吉祥」とは、めでたい^{きざ}兆し、良いしるしを表す言葉です。古来より人々は、さまざまな事物、事象に吉祥性を見出し、それを意匠化することで、福が訪れるよう願いました。日本の吉祥の意匠は、中国に起源を持つものが多くあります。よく知られる意匠には、龍や^{きりん}麒麟、^{ほうおう}鳳凰などがあります。龍は、水を操る力を持ち、古代においては水神として崇められ、強大な力を持つことから、権威と結びつき、後に皇帝の象徴にもなりました。また、麒麟、鳳凰は、有徳の君主が現れた際に出現するという伝説を持ちます。これら三者は、吉事を予感させる^{ずいじゆう}瑞獣とされ、尊ばれました。

吉祥の意匠には、古代中国で広まっていた神仙思想に由来を持つものも多くあります。神仙思想とは、修行し仙人となることで、病苦や死から切り離された神仙境に住まい、その永遠の生を^{おうか}謳歌することを目指すという思想です。神仙世界には、寿老人や西王母などの仙人、神仙境に根付く永遠に枯れない松や竹、1000 年以上生きる鶴亀、仙人が使役する長寿の鹿などが存在し、理想の世界を形作っていました。これら一つ一つが、吉祥の意匠として現代まで引き継がれています。また、神仙世界で描かれる松、竹、梅は、逆境でも清

廉潔^{れんけつぱく}白^{はく}な人物^{じんぶつ}を讃^{たた}えた故事^{こと}「歳寒^{さいかん}三友^{さんゆう}」によって、一つの組み合わせとして捉えられるようになり、現在、日本での吉祥意匠の主流となっています。

上記以外にも、人々は福を求めて、多様な意匠を身の回りの品々に取り入れていきました。例えば、故事「登龍門^{とうりゅうもん}」の滝を登る鯉は立身出世、音^{おん}が「禄^{ろく}」（財産、地位）に通じる鹿は豊かな財産、多くの唐子^{からこ}が表された唐子遊図は子孫繁栄をそれぞれ象徴するとされます。これら中国発祥の意匠に加え、日本では独自の吉祥文様も生まれました。その中には、邪気を払う七五三繩^{しめなわ}、勝虫^{かちむし}と呼ばれ武士から好まれた蜻蛉^{とんぼ}、末広がりの形から繁栄や発展を意味する扇^{おうぎ}などの意匠があります。

本展では、吉祥文様に彩られた品々を一堂に会し、その文様が持つ意味を紐解き、新年を華やかに言祝ぎます。

5 展 示 作 品

別添リストの 32 件

6 観 覧 料

一 般 700 円(560 円)

小・中学生 350 円(280 円) ()内は 30 名以上の団体割引料金

*常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけます。

7 関 連 事 業

ギャラリートーク

日 時：令和 7 年(2025 年)1 月 11 日(土) 午後 2 時～ *30 分程度

会 場：当館展示室 1

参加費：無料 *観覧料が必要です

講 師：今中啓太(当館学芸員)

問い合わせ先

彦根市教育委員会事務局

彦根城博物館 学芸史料課

担当：今中啓太

(電話 0749-22-6100)

テーマ展「吉祥－招福の意匠－」展示作品リスト

番号	作品名称	作者	数量	時代	所蔵
瑞獣現る					
1	金銅六角瑞獣文火入		1口	中国・明時代	本館（井伊家伝来資料）
2	麒麟鳳凰図	狩野英信	2幅	江戸時代	個人
3	湖東焼 赤絵金彩鳳凰文酒盃	賢友	1口	江戸時代	個人
4	湖東焼 赤絵金彩麒麟文酒盃	赤水	1口	江戸時代	個人
5	湖東焼 染付雲龍図手洗鉢		1口	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
6	「鳳鳴朝陽」蒔絵箱		1合	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
神仙世界に遊ぶ					
7	能装束 紺地丸龍と風景文様側次		1領	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
8	金地蓬萊図中啓		1握	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
9	高砂字蓬萊文柄鏡		1面	江戸時代	個人
10	松竹梅鶴図	住吉広行	2幅	江戸時代	清涼寺
11	梨地松竹鶴図蒔絵箱		1合	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
12	梨地流水亀図蒔絵長文箱		1合	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
13	仙人尽図	加藤湖川	1巻	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
14	蠟石製桃形肉池		1合	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
15	褐釉霊芝図匏形鉢		1口	江戸時代	個人
16	寿老人図	狩野永岳	1幅	江戸時代	本館
吉祥百姿					
17	紫水晶鶏諫鼓硯		1基	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
18	梨地菊花蒔絵重硯箱	常川	1組	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
19	黒漆塗鯉図蒔絵広蓋		1枚	江戸時代	個人
20	牡丹図	板谷広長	1幅	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
21	梨地獅子牡丹図蒔絵長文箱		1合	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
22	湖東焼 染付蝙蝠形向付		2枚	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
23	唐子遊図		2曲1隻	江戸時代	個人
24	梨地扇面散らし蒔絵手箱		1合	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
25	蜻蛉文逆頬簔		1口	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
26	能装束 胴箔地宝尽し文様鬘帶		1筋	大正～昭和時代	本館（井伊家伝来資料）
27	能装束 白地葡萄文様腰帶		1筋	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
28	能装束 四季草花の熨斗札散らし文様に鶴亀紋掛直垂		1領	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
29	梨地燕蒔絵螺鈿鞍		1背	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
30	葡萄栗鼠図鐺		1枚	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
31	七五三縄図鐺		1枚	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
32	七福神山水図	狩野養信	3幅	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）

*番号は作品リストの番号と一致します。

8 金地蓬莱図 中啓 1 握

全長：35.0 cm

江戸時代

本館（井伊家伝来資料）

中啓^{ちゅうけい}と呼ばれる扇の一種で、能で用いる小道具です。神仙思想における理想郷の一つである蓬莱^{ほうらい}が表されています。蓬莱は、巨大な亀の上にあるとされる島で、不老長寿の仙人が住まい、1000年以上生きる鶴が生息し、永遠に枯れない松や竹、梅が存在すると考えられました。蓬莱図の中啓は、正月や舞台開きなどの特別な時に天下泰平や五穀豊穡^{ごこくほうじょう}を祈って演じられる「翁」^{おきな}専用のもので



16 寿老人図 1 幅

狩野永岳 筆

縦：95.3 cm 横：35.2 cm

江戸時代

本館

寿老人^{じゅうろうじん}を中心に、童子、白鹿、鶴が描かれた掛軸^{かけじく}。寿老人は、寿命をつかさどり、長寿を受けるとされた中国由来の神仙で、日本では七福神の一人としても知られています。椅子に腰かけた寿老人が、鶴に餌を与える童子を見つめています。背後の童子が手にするのはそれぞれ、寿老人の杖、人の寿命が記されているとされる巻物です。

本作は、彦根藩御用絵師であった狩野永岳^{かのうえいがく}（1790～1867）の作です。



17 ^{むらぎすいししょうとりかん こすずり} 紫水晶鶏諫鼓硯 1基

最大幅：30.2 cm 高：8.0 cm

江戸時代

本館（井伊家伝来資料）



紫水晶製の硯。鶏形の水滴と鼓形^{つづみ}の蓋^{ふた}が備わります。鼓にはめでたい兆^{きざし}とされる霊芝雲、台座には梅が表されています。鶏と鼓の取り合わせは「諫鼓^{かんここけ}苔深くして鳥驚かず」という中国の故事に由来します。諫鼓とは、悪政が行われた際に君主を諫めるために鳴らされる鼓のことです。この故事は、君主の善政によって、諫鼓を鳴らすものが誰もおらず、いつしか鼓は苔むしてしまい、鶏も鼓の音に驚くことがなくなったという内容で、天下泰平を象徴する話として知られています。

28 ^{のうしょうぞく しきくさばな のしふだちもんよう つるかめもんかけひたれ} 能装束 四季草花の熨斗札散らし文様に鶴亀紋掛直垂 1領

丈：98.5 cm 袖^{ゆき}桁^{たて}：102.5 cm

江戸時代

本館（井伊家伝来資料）



鶴亀^{のしふだち}と熨斗札^{かけひたれ}が表された能装束の掛直垂。鶴亀は長寿の象徴とされます。熨斗札は、伝統的な儀礼や祝儀の進物として用いられる熨斗鮑^{のしあわび}を巻く紙のことで、吉祥的なものとして意匠に取り入れられました。熨斗札には、松や梅、牡丹、菊、桔梗^{ききょう}といった四季折々の草花が表されています。その中には、富貴^{ふうき}や長寿の象徴ともされる草花が多く、装束全体が吉祥の雰囲気を感じさせます。

29 梨地蕪蒔絵螺鈿鞍 1 背

前輪高：20.8 cm 後輪高：19.4 cm

江戸時代

本館(井伊家伝来資料)

蕪が両輪の形に添うように大胆に表されている鞍。蕪の根を銀、葉を金と螺鈿で表した豪華な装飾になっています。蕪は、その読みが「頭」に通じることから、組織の頭となるようにという立身出世の願いが込められた縁起物とされます。

この鞍は、8代将軍徳川吉宗所用とされるもので、安政5（1858）年に井伊家13代当主直弼が14代将軍徳川家茂から拝領したものです。

